

てんでとり合わぬ職制

# 摘発目標きめ闘う

危険箇所ズバリ

富浦鉾のスライジンギョ抜いは、  
 昨年の八月探炭を開始してから早  
 くも一年たつ。地下三百二十メー  
 トルの坑底に、主下二段、幅百三  
 十のあかごんぐつ炭じんの舞いあが  
 るとすたい。水がまかれている  
 といへば、まかれていゝることには  
 なるでしようが。

あかんでつ炭じんの舞いあが  
ですたい。水がまかれている  
えば、まかれていることには  
でしょうが。

羽では、カツタが毎日うなりを生じながら、ほぼ千九百トンの石炭を掘っている。

この職場に伪く乙方の労働者は全部で九十五人。うち二十人が会社の合理化に抵抗するため、日に日に強まる強制支配と断固たたかう三池労組員である。彼らは、異口同音に語る。

——第二組合員の人たちは、休憩時間にさえ、そんな職場からは休まなけりゃ、その炭じんの舞いよはる切羽で辱めしですよ。マイトの音があると、ベントウ縮のうえに体をうつかぶせて、炭じんのはいらんごつしよりますが、あの人たちのあちやんたちは、せつかくよかベントウをつくつてもたせやっても、自分の夫たちが果して

もうもうたる炭じんも  
係員の目にはいらす  
——カッターが動くときは、目  
でとげんとくで、そのベントウ  
を開きよるか、恐らく知らんさ  
でしようね。

# 解放を求めて

「パリ・コミューン」

三川町美男

この物語は、一人の主人公のお  
い立ちからはじまり、彼が次第に  
成長するにしたがつて、当時のフ  
ランス国内の貧困と不正に対する  
社会的憤りによる、おりからの

——係圖はひっぱってきて炭  
んの舞う現場を見せながら、やり  
合うとですよ。「もっと改良し  
て、うまく散水ばやってくれん

の」「あなたたちは方法を知らなければ聞くと、背すじを水の走る思いであるが、恐しさは何も炭壁に限ったことではない。心ななき係員の指図によって、かろうじで天盤をささえている大事な鉄柱が、つい油断しているうちに間引かれたり、かんじんのガス検定が怠たられたり、「このままだといいつ重大災害が起るかわからないう」との声しきりである。だからといって何かひと口でもいえば、「三池労組は文句ばかりいう」となり、あけくが賃金カット、合

いじめてくる。

公傷者も仕事に狩りだ  
され、文句もいわせぬ  
不幸にしてケガでもすれば、  
困

れ、公傷したからといっても休ま  
せてもらえず、「坑外の仕事なら

……」と狩り出され、チンパひきひき転場に出てきては、さんざんきたわれている。しかも、公傷者としての補償賃金よりはるかに、はるかに安い坑外賃金で……。

宮浦鉞正門に、デカデカと立てられた「安全週間」の立ち看板。誰一人ふり向きもせず、秋風に恥をさらしている。

▼去る日、水平抗道を行中の人車に、空の人車が疾走してきて衝突するという事故がありました。その日の話である。

A 氏 Sさん、今朝坑内で人車事故があったそうですね？

S 軋制 ほオ、そらア知らんバイ。

B 氏 目置から空の人車がつつ走ってきて、人車と衝突したったい。

S 軋制 ほオ、そらア知らんバイ。

C 氏 知らんてあんた人車のビツチャゲルごつ衝突

人間の命より  
人車が大切？

したもんで、三人のケガ人のおつたげなバン。

S 軋制 そらア、人車の修理がオオゴツタイ。

S 駄制 ほお、そらア知らんバイ。

C 氏 知らんてあんた人車のビッチャゲルとつ衝突

人間の命より

人車が大切？

したもんで、三人のケガ人のおつたげなバン。

S 駄制 そらア、人車の修理がオオゴツダイ。

人間のいのちの心配よりも  
人車の修理のことを先に考へ  
つくとは、さすがは三池の駈  
制だとはと感心させられ  
たわけだが、S 駈制、次の朝  
顔をあわせると開口一番いわ  
く——  
「きのうの人車は、たいし  
た破損じゃなかったバイ」  
（営浦支部十四分會新聞“坑  
外駈場新聞”第二号から）

ようとしている小選挙区などの問題についてさえ、真剣に考え始められているほどだ。

あまりの振制の非道に対して、スコップをふりあげて怒りの抗議を行なった第二組合員もいるというが、富浦鉱のスライシング払いに見られる現実からすれば、労使署は一日も早く職場で二つに團結することが何よりの急務で、同職場の職場委員・谷崎工さん（三十才）はいつている——「職場が一つになつて、小さい問題を解決

から見る限り、ようやく第二組合員の間にも日々劣化者としての自覚が高まっている。CO問題をい

さうされたことがあるが、わたしは自覚であつたが、彼の関心はいまやベトナムにおけるアメリカ軍の退却と、そして取場の甚々しく、そして取場の

ある  
対話

米価値上げについて

B 男 作年一今年と二年読き

だよ。

A  
子  
お米が不作なの？

B 男 いや、今年は史上

の豊作と云ふやうなところ

にど値上げ幅は戦後一平

A  
子  
おかし  
いじや  
ない

ンマでもキューリでも、

年は安いわよ。

B 男 たしかにその通

よ。だけれど政府がいうには

米価をあげないと、赤字が

く出ちゃう」んだってさ。

A  
子  
それじゃ、豊作に

ばなるほど、お米の値段は

「つちゃうの。」

男 いまの政府のやり

A 子 おどろいたわ。ど

—

100

10

ようとしている小選挙区などの問題についてさえ、真剣に考え始めているほどだ。

あまりの振制の非道に対して、スコップをふりあげて怒りの抗議を行なった第二組合員もいるというが、宮浦鉦のスライシング払いに見られる現実からすれば、労働者は一日も早く職場で二つに団結することが何よりの急務で、同職場の職場委員・谷崎工さん（三十才）はいつている——「職場が一つになって、小さい問題を見逃がさず摘発していったこそ、大災害の発生をふせけるのです」

おねがい

職場の皆さん、どしどし職場の実態を投稿して下さい。文章の上手下手にとらわれず、どんな紙に書いてもよいのです。

ればいいかしら？

B 男 国民的反対運動を起すこと。しかも農家の人にも米の値あげの実態を知ってもらって一緒に反対運動をすることだと思ふ。

A 子 政府のいうことって、金がないという理由で食費値上げを、寮生に押しつけてきた会社に似てるわね。

B 男 その通り。本当なら生産者値あげ分は政府が責任もって、国民に負担かけないよう、にすべきだし、寮の食費にについては、会社が責任もってやるべきだよ。いまの政府の考え方と会社の考え方が同じだということが、お米の値あげ、寮費値上げという事実のなかに、ハッキリしたのだね。

A 子 合理化ってのは、政府と資本家とが一体となって行っていることがわかってきたわ。

（ウエストン音機労組の機関紙「こぶし」から）